

トピックス

- 総合診療科ができました
- SCU・脳卒中センターができました
- 東京DMAT指定医療機関に認定
- 新入職員が就職しました
- これからの建築
- がん診療相談窓口
- 増改築が終了しました
- 能登半島地震がありました
- 病院の風景

総合診療科ができました



長田総合診療科部長

2007年4月から、当院の内科診療をお受けいただくためには、原則として地域の医療機関からのご紹介が必要です。

●当院宛ての紹介状をご持参の方
内科外来及び内科系専門診療科外来にて診察させていただきます。

●突然具合が悪くなつてかかりつけの先生から紹介状を書いてもらう余裕がなく来院された方
総合診療科で応急処置を含めた診療を致します。

総合診療科では病状に応じて精密検査・入院治療までを行います。その結果、治療の方向性が決まりましたら状況により、地域医療機関へのご紹介とさせて頂くか、当院の専門診療科受診とさせて頂きます。

このことにより、
①地域の中核病院、地域支援病院として、当院で診療を必要とする紹介患者さまに、予約時間通りの適切な診療が可能となります。

②かかりつけ医師と当院の連携により、患者さまに最適な医療を提供する体制がいつそう整います。



総合診療科受付(救急外来)

つまり、ふだんは患者さまの生活をよくご存知の地域の先生方(かかりつけ医)が患者さまの個性にあつた医療を提供し、そこで当院のような病院で精密検査や専門治療が必要と判断された場合に、当院でなければできない診療が終ればまたかかりつけの先生に「医療連携」のあるべき姿が深まります。

これは、この10年のわが国の医療行政の方向に沿つたものですが当院とこの地域の医療機関が連携して、お一人お一人にふさわしい最善の医療を提供しようという努力してきた姿勢でもあります。今回の変更は、このような地域としての診療体制を、いつそう推進していくことを目的としています。場所は、救急外来で行われます。

SCU・脳卒中センターができました



急性期リハビリテーションセンター

C-3病棟に隣接して

SCU(ストローク・ケア・ユニット)ができました。

SCUでは、脳卒中(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血など)の患者さまに、これまで以上に、速やかに適切な診療を提供してまいります。

C-3病棟の急性期リハビリ病棟と一体運営し各科が共同した、チーム医療にて脳卒中の診療にあたります。



SCU病棟

あい

Eyeむさしのは患者さん向けの情報誌です。ご自由にお持ち帰り下さい

増改築が終わりました

この3月で、今回の増改築の大半が終了しました。外来棟の建築救急外来・ICU・HCUの拡張整備に続き、クローバー3階(C-3)病棟には、急性期リハビリ病床として神経内科・脳神経外科の病床と、4月から開設された総合診療科の病床が入ります。

急性期リハビリ病床では、早期からのリハビリテーションを含めた脳神経疾患の診療が行われます。

2階HCU・ICU家族待合所



1階総合診療科待合

八丈島から来たフリージア嬢が病室を訪問



これからの建築

今後とも、若干の建築が続きますので、よろしくお願ひ申し上げます。売店の移設では、ご不便をおかけしました。

5月24日にファミリーマートが24時間営業でオープンしました。レストランにつきましては多くの皆様からご要望がありました。増改築の関係で長い間お待ち頂くことになってしまいました。もう少しだけお待ちください。

ファミリーマートは24時間営業しています

店長の庄子です
はじめまして



がん診療相談窓口

当院は「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けております。その業務の一つとして、がん診療相談窓口がタリーズ横の患者相談窓口にて併設されており、がんの診療を受けておられる患者さまやご家族のお悩みやご心配についてご相談させていただいておりますので、困りの方はお気軽に声をおかけください。



病院の風景

アトリウム向かいのオープンスペースに、国木田独歩(1871-1908)の「武蔵野」の碑があります。「武蔵野」に書かれているような自然に囲まれた環境で療養していただける病院でありたいと思っております。

ちなみに、武蔵野駅は甲武鉄道として1889年に中央線が新宿から立川まで開業した時から「中野」「国分寺」と共に設けられた由緒ある駅で、「武蔵野」の中にも武蔵野、当時は「境」から北のほうに歩を進めていく様子が書かれています。



「東京DMAT指定医療機関」に認定

DMATとは、「災害医療派遣チーム」のことで、DMATは Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって「ディーマツト」といいます。東京DMATは医師、看護師、事務職員から構成され、平成16年に全国で先駆けて東京都に設置されました。東京都が行う隊員養成研修を受講した隊員は、災害現場での医療ノウハウを取得し、東京消防庁と連携して活動します。本年4月、当院も「東京DMAT指定医療機関」に認定されました。大事故などの際には、東京都(東京消防庁)の判断により当院にもDMAT出動要請が出されます。DMAT隊員は連携隊の専用車両に乗車、発災現場へ出動し医療活動にあたります。これまで研修を終了した当院の隊員は、医師11名 看護師21名となっており、今後も順次研修に参加する予定となっています。

日本赤十字社では、災害時などに派遣される常備救護班を全国に483班編成しており、当院でも13班91名が万が一の場合いつでも出動できる態勢をとっています。

東京DMATの活動がいままでの常備救護班との活動として大きく異なるところは、消防と連携してその活動を行うところです。実際には、交通事故などの災害現場で救出に時間がかかるような場合に、救命救急センターの東京消防庁ホットライン電話に東京DMATの要請があります。同時に武蔵野消防署から消防車がおよそ10分以内で当院の東京DMAT隊を迎えにきます。その間に東京DMAT隊は着替えも含め出動準備をしなくてはなりません。当院は今までの日本赤十字社常備救護班に加え、都市型災害に対応した東京DMAT体制を導入することにより、

迅速な災害現場への出動、対応が可能になりました。今後とも当院では災害訓練等を実施し都市型の災害から、自然災害まで様々な災害に対応できるようにしていきたいと思えます。



東京DMAT隊員



4月に行われた出動訓練の様子



東京DMAT指定医療機関

- ・独立行政法人国立病院機構災害医療センター
- ・日本医科大学付属病院
- ・帝京大学医学部付属病院
- ・杏林大学医学部付属病院
- ・東京都立広尾病院
- ・東京都立墨東病院
- ・東京都立府中病院
- ・昭和大学病院
- ・東京医科大学病院
- ・東京女子医科大学東医療センター
- ・医療法人社団誠和会白髭橋病院
- ・東京医科大学八王子医療センター
- ・青梅市立総合病院
- ・東邦大学医療センター大森病院
- ・武蔵野赤十字病院
- ・公立昭和病院
- ・東海大学八王子病院



新入職員が 就職しました

今年も100名を超える職員が入職し、4月2日に入社式が行われました。この春、学校を卒業した医師・看護師も多数おられます。



平成19年度入社式

いろいろと至らないところもあるかと存じますが、「愛の病院」の一員として研鑽に努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

能登半島地震が ありました

3月25日、能登半島地震がありました。当院では、直ちに救護班がいつでも出動できる態勢で待機しました。今回は出動に至りませんでした。今回は出動に際しても国内外の災害救護に対応できる態勢をとっています。災害救護は、赤十字の大きな使命の一つなのです。



武蔵野赤十字病院救護班



紹介します

今号からシリーズ企画として、病院内の各部署や働く人物にスポットを当てて、皆さんにご紹介していこうと考えています。

第1回目は 病院の顔ならぬ 病院の声

電話交換手の巻

皆さんが武蔵野赤十字病院に電話をかけると、最初に話をするのが、電話交換手です。皆さんからの電話を確実に担当部署へつないだり、院内での電話番号問い合わせなど一日平均1200件の着信に対応しています。

また、院内放送で、ご案内しているのも電話交換手です。女性ばかり7人がローテーションを組んで、24時間体制で活躍しています。まさに緑の下の力持ち。陰ながら、病院の業務がスムーズに行くよう日々、頑張っています。



電話交換室内の様子



今年の赤十字デーの催し内容



毎年5月に行われる
世界赤十字デー

武蔵野赤十字病院 基本理念

「愛の病院」4つの愛

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球・自然・命への愛